

市政の窓



No.60

観光拠点整備へ始動

市長就任時のマニフェストに掲げた八日市場駅前(JT跡地)の利活用問題は、市民や

や商工業などとの連携を図りながら、本市の産業振興と地域の活性化を図ってまいりますので、市民の皆さんのご理解とご協力を切にお願いいたします。

有識者などによる「新生匠 磋戦略会議」からの提案に基づき、庁内での調整を重ねた結果、観光情報・物産販売コーナー、観光トイレ、イベント広場等を配置した観光案内所などを整備する計画を立て、9月定例市議会に上程し、ご意見などを頂戴した上で、全員賛成で採択いただきました。

先月23日、平成27年度新嘗祭献穀献納式が皇居の賢所参集所で行われ、匠瑳市から精米と精粟を献納いたしました。新嘗祭は、毎年11月23日に、皇居内において五穀豊穣を感謝する宮中恒例祭ですが、この行事に使用されるお米と粟の献穀者に、千葉県を代表して本市の農業者2名が選ばれたものです。市制施行10周年の記念すべき年に、匠瑳市から献穀できましたことは、

大変名誉なことでのこの上ない喜びであり、本市農産物のイメージアップにもつながるものと期待しています。新嘗祭献穀献納式と前後して、11日には「第20回飯高檀林コンサート」、18日には「第37回よかつぺ祭り」、また、25日にはNHKラジオ番組「民謡をたずねて」の公開録音が市制施行10周年記念事業として開催され、いずれも大盛況のうちを終了いたしました。

今月8日には、「第10回 そうさ農業まつり」も同じく記念事業として開催されます。ぜひ会場に足をお運びください。

匠瑳市長 太田安規

図書館だより

休館日…5日(木)・24日(火)・毎週月曜日
祝日開館日…3日(火)9時~17時

★読書週間に「お楽しみ袋」を実施

10月27日(火)~11月9日(月)は「読書週間」です。終戦間もない昭和22(1947)年11月、「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」という決意のもと、読書週間が始まりました。今年の標語は「いつだって、読書日和」です。

期間中、八日市場図書館では、昨年度好評だった本の「お楽しみ袋」を用意します。「男の趣味」「パワースポット」「柴犬」などのテーマごとに本を選び、数冊を袋に詰めたものです。何が入っているかは「お楽しみ」!

★お気に入りの本を見つけよう

秋の夜長は読書を楽しみましょう。図書館でお気に入りの一冊を探しませんか。読みたい本が見つからないときは、お気軽に図書館職員へ声をかけてください。

今月のイベント

★おはなし会

日時…毎週土曜日 14時から約30分間

会場…八日市場図書館

※12月19日(土)は「冬のお話を楽しむ会」を開催予定です。

☎八日市場図書館 ☎73-3746 (17時まで)

文芸コーナー

短歌

小泉 泰清 推薦

手を握り放さずありし妹よ看取るる我を残すはなにぞ

若潮町 伊藤登美枝

たそがれに聞く蝸の声わびし夏は去りゆき虫の音集く

平木 大木ヨシ子

いつになく菊の香満ちたる花屋にて彼岸花買う先視偲びて

八日市場イ 木島 仁美

山びこの返す言葉を待ち居れど答えぬ妹は夜空に光る

内山 久古美智子

孫娘我が誕生日忘れず今年も届きし宅配開ける

安久山 木下 ふさ

十二支を八度巡りて敬老の日抱えきれないあの世の土産

野手 佐藤 泰子

父の目に再び問えば生きる意志ただ一粒の巨峰に託す

春海 八角 宗林

川口 城司 推薦

大楠の枝を透かして明々と今し昇り来、スーパームーン

栢田 小川 知至

径沿ひに友の育てしコスモスの風にゆれつつ今さかりなり

野手 大木 政子

芽立ちたる秋蒔大根黄みどりの色稚けなく畑に列なす

野手 伊橋 良子

黒星を重ねしのちの勝ち名乗り受けたる力士眼差し険し

今泉 稲葉 雪子

俳句

八木 佐久司 推薦

日暮れまで女堂守秋桜

八日市場八 大川 宣子

水戸藩士の墓

吉崎を歩く

1868(明治元)年11月19日(旧暦の10月6日)、八日市場村周辺は、突然恐怖感に包まれました。

水戸藩の天狗党と諸生党の最後の戦い「八日市場・松山戦争」がこの日に繰り広げられたのです。諸生党の家老・市川三左衛門を中心とする市川勢は、同年3月、総勢500人以上で水戸を脱走し、福島・会津、新潟・長岡などで新政府軍と戦い、佐渡に渡ったのち再び新潟、会津を転戦しました。11月14日(旧暦の10月1日)の水戸弘道館の戦いの後、銚子を経て八日市場にきた市川勢は、追討する天

狗党に壊滅されました。市川勢の戦死者慰霊は、1966(昭和41)年秋に「脱走塚百年祭」が、それから40年後の平成20年10月6日に「水戸藩国事殉難者慰霊祭」が中台区(匠瑳地区)で行われました。

この慰霊祭の計画を知らされたのを機に再調査を行いました。新たな情報もたらされました。それは、吉崎区(共興地区)の共同墓地に「水戸藩士の墓」があるというものでした。

高さ50cmほどの墓石の表面に「塚原萬治郎之墓」と書かれ、裏面に刻まれた内容が実に興味深いものでした。「氏(塚原)は水戸藩士にして、明治元年3月首領市川三左衛門と同士90余人と水戸城を脱し、会津城に入り官軍(新政府軍)に抗し利あらず、下総銚子に至

り再興を謀らんと同所にて戦い、大疵を受け、この地(吉崎村)に止まり世を送る」とあり、各地を転戦してきた市川勢の行動を伝えていきます。塚原は明治34年1月に亡くなり、大正8年10月6日に墓石を建てた鈴木仙太郎との関係など不明な点が残るもの、これまで伝えられてきた内容と合致しています。

銚子から飯岡、そして海岸線を西に進んだ市川勢は、神宮寺から大塚原(ともに旭市)、吉崎村を経て八日市場・福善寺でいったん休んだのち、松山・中台での戦いとなりました。市川勢の戦死者は名前が分かっている者が30人、行方不明者は40人とも50人ともいわれています。

戦いの後4日間にわたり八日市場村を拠点に市川勢の探索などにあたった天狗党の行動は、「誠に傍若無人のふるまいなり、村つぶれそうろう様子なり」と伝わっています。「八日市場・松山戦争」から間もなく150年を迎えることになりました。

(市文化財審議会委員・依知川雅一)

問 秘書課広報広聴班 73・0080



吉崎区にある水戸藩士・塚原萬治郎の墓

潮待ちの港の釣瓶落しかな 長谷 宇野とし子
 風ぐせの釣瓶落しとなりけり 内山 椿 和枝
 秋桜堤を染めて水のゆく 若潮町 最上 峻
 秋の陽を折りたたみたる屏風岩 登戸 伊藤 さく
 見舞ふたび吾が身を重ね深む秋 横須賀 岩井 やす
 古里をゆっくりわたる秋の風 上谷中 太田三樹夫
 秋灯下十年綴りの日誌かな 横須賀 吉野 ヨシ

川口 城司 推薦

呑み切ってラムネの玉が音になる 今泉 野仲 妙子
 夏の空かなしき気分故知らず 栢田 石田 健
 カナカナの命を惜しむやうに鳴く 野手 小関 義一

川柳

鈴木 十世志 推薦

名称が変わり今では文化の日 木積 佐久間美智子
 天高く自由と平和文化の日 八日市場ホ 大木波津恵
 文化の日後一枚のカレンダー 東小笹 江波戸京子
 文化の日写経の筆に心澄み 八日市場ホ 菱木 静枝
 イベントを競い合ってる文化の日 八日市場イ 常世田やす子
 赤とんぼ虹を追っかけ天に舞い 堀川 勝又 康之
 枯葉散る涙するほど暇でない 春海 八角 宗林
 GPS付けて旦那の放し飼い 飯高 松野 敏昭

川口 城司 推薦

川 辺 及川 利道

力作 募集中

あて先：匠瑳市秘書課広報広聴班
 〒289-1219 8
 匠瑳市八日市場八793番地2
 ☎73・0080 FAX72・1114